

みてんか

まつさか市議会だより

vol.70
2018.5.1

マジメで
面白くない
報告ですが…

「みてんか」は電子
ブックやPDFでも
ご覧いただけます。



松阪市の 平成30年度 当初予算が 決まりました!!



▲ 2月定例会の様子

平成30年2月定例会は、2月14日から3月23日までの38日間の会期で開かれ、市長の「基本的な考え方」と当初予算が審議されました。

定例会の初日には、40議案が上程され、代表質問は、2月20日、22日、26日、28日、3月1日の計5日間で行われました。3月14日には、議案19件が追加上程され、最終日の23日には、人事案件1件、発議2件が上程され、議案62件は、原案通り可決されました。

● 平成30年度当初予算内訳

(単位：円)

	平成30年度	主要事業
一般会計	691億5,992万9,000円	カリヨンビル購入 幼稚園、小中学校空調設備 駅西ワークショップ 市民大学講座 津波対策 防犯カメラ設置補助金
特別会計 (8会計)	504億8,797万8,000円	競輪事業 国民健康保険事業 介護保険事業 後期高齢者医療事業などの8会計
企業会計 (3会計)	269億7,134万5,000円	水道事業、公共下水道事業 松阪市民病院事業の3会計
合計	1,466億1,925万2,000円	

用語解説

一般会計… 教育・福祉・行政のサービスや道路・公園の整備など市の行政運営に使う予算
 特別会計… 競輪事業・国民健康保険事業・介護保険事業・後期高齢者医療事業・簡易水道事業・個別合併処理浄化槽整備事業・農業集落排水事業・住宅新築資金等貸付事業など特定の目的のみで使う独立した予算
 企業会計… 独立採算の水道事業・公共下水道事業・松阪市民病院事業に使う予算

前年度より

約 39 億 1,923 万円増

最も議会で質問が集中したのは、約1億6,892万円でカリヨンビルを購入する事業。

カリヨンビルは、松阪市も出資し、平成3年9月に設置した第三セクター「株式会社街づくり公社」が、中心市街地の旧・オークワ跡に平成5年に開業したもので、現在は公設民営の市民活動センターや、市産業支援センターなどが入っています。

市が購入するのは、公社が建設時に国、県から借りた資金の返済残高を一括で返済するよう県から求められ、裁判所の調停の結果、市が買い取ることを勧告されたためです。

市が公社に3億円を出資、それを条件に国、県が計11億円を貸し付けたのが問題の発端です。議会でそのことを問われた市長は、市、県などがかわった「当事者それぞれに責任」があることを認め、「市は適正な価格で購入することが、できる限りの道義的責任」としました。

代表質問 & 関連質問

内容	日本共産党	政志会	市民クラブ	真敢クラブ	公明党	グループ泉
カリヨンビル購入	●	●	●	●		●
市民病院在り方	●	●	●			●
防 災		●		●	●	●
財 政		●		●		●
「富樫のまち地産」 中心市街地土地利用計画	●	●			●	
学校の空調整備	●	●				●
地域公共交通	●		●	●		
フルマラソン		●	●	●		
スケートパーク		●			●	●

議案
第1号

平成30年度松阪市一般会計予算



反対討論 マイナンバー制度について市民の多くは利便性より公共的な安全安心を選択されているのが実情。介護保険料が上がるサービスが確保できるかどうか、国の進める方向をそのまま受けている本予算には反対。

賛成討論 収支均衡のとれた確実な市財政運営であること。次代の子供への集中投資であること。新たな事業と継続事業の充実に市民の声をもとに丁寧に見現化されているチャレンジ予算に期待したい。

意見 財政調整基金の確保に努力し、借入は返済を上回らないことを基本にしていきたい。スケートパーク関連事業において、引き続き協議、検討等を深めていきたい。

議案
第4号

平成30年度
松阪市介護保険事業特別会計予算



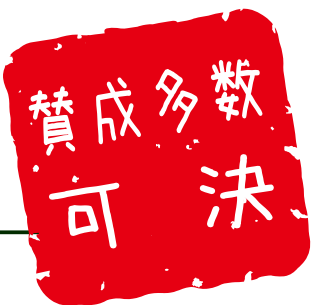
議案
第10号

平成30年度
松阪市水道事業会計予算

反対討論 水道会計収支の36%が県企業庁への受水費で、過大な契約水量が市民負担に繋がるという構造的な問題に引き続き取り組んでいきたい。また、介護保険料は市民の負担増になり、十分な介護サービスへの展開ができるか疑問。

議案
第36号

松阪公民館条例の一部改正



(説明)松阪公民館が平成30年4月1日より移転することにより、所在地の変更および、貸倉庫の使用料を追加するもの。

反対討論 利用者を見無視した行政の政策決定過程が間違っていた。社会教育の中心となる公民館活動の位置づけを教育行政の中で長年経んじてきた問題が指摘できる。

平成30年
2月定例会



議決結果一覧表

全会一致で可決、同意、賛成された案件

議案番号	案 件
議案第2号	平成30年度松阪市競輪事業特別会計予算
議案第3号	平成30年度松阪市国民健康保険事業特別会計予算
議案第5号	平成30年度松阪市後期高齢者医療事業特別会計予算
議案第6号	平成30年度松阪市簡易水道事業特別会計予算
議案第7号	平成30年度松阪市戸別合併処理浄化槽整備事業特別会計予算
議案第8号	平成30年度松阪市農業集落排水事業特別会計予算
議案第9号	平成30年度松阪市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算
議案第11号	平成30年度松阪市公共下水道事業会計予算
議案第12号	平成30年度松阪市松阪市民病院事業会計予算
議案第13号	松阪市ふるさと応援基金条例の制定について
議案第14号	松阪市地域好循環創造基金条例の制定について
議案第15号	松阪市指定居宅介護支援等の事業の人員、設備及び運営に関する基準条例の制定について
議案第16号	松阪市公共施設等基金条例の廃止について
議案第17号	松阪市プラザ鈴条例の廃止について
議案第18号	松阪市移動通信用鉄塔施設条例の一部改正について
議案第19号	松阪市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正について
議案第20号	松阪市職員の育児休業等に関する条例の一部改正について
議案第21号	松阪市委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について
議案第22号	松阪市職員の給与に関する条例の一部改正について
議案第23号	松阪市職員退職手当支給条例等の一部改正について
議案第24号	松阪市国民健康保険支払準備基金条例の一部改正について
議案第25号	松阪市企業立地の促進に係る固定資産税の特例に関する条例の一部改正について
議案第26号	松阪市手数料条例及び松阪市特別工業地区建築条例の一部改正について
議案第27号	松阪市国民健康保険税条例の一部改正について
議案第29号	松阪市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準条例の一部改正について

議案番号	案 件
議案第 30 号	松阪市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準条例の一部改正について
議案第 31 号	松阪市指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に係る基準に関する条例の一部改正について
議案第 32 号	松阪市後期高齢者医療に関する条例の一部改正について
議案第 33 号	松阪市企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律第 10 条第 1 項の規定に基づく準則を定める条例の一部改正について
議案第 34 号	松阪市営住宅条例の一部改正について
議案第 35 号	松阪市改良住宅条例及び松阪市小集落改良住宅条例の一部改正について
議案第 37 号	松阪市飯南体育センター条例の一部改正について
議案第 38 号	市道路線の認定について
議案第 39 号	市道路線の廃止について
議案第 40 号	市道路線の変更について
議案第 41 号	平成 29 年度松阪市一般会計補正予算（第 7 号）
議案第 42 号	平成 29 年度松阪市競輪事業特別会計補正予算（第 2 号）
議案第 43 号	平成 29 年度松阪市国民健康保険事業特別会計補正予算（第 2 号）
議案第 45 号	平成 29 年度松阪市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第 4 号）
議案第 46 号	平成 29 年度松阪市簡易水道事業特別会計補正予算（第 2 号）
議案第 47 号	平成 29 年度松阪市戸別合併処理浄化槽整備事業特別会計補正予算（第 1 号）
議案第 48 号	平成 29 年度松阪市農業集落排水事業特別会計補正予算（第 2 号）
議案第 49 号	平成 29 年度松阪市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第 1 号）
議案第 50 号	平成 29 年度松阪市水道事業会計補正予算（第 3 号）
議案第 51 号	平成 29 年度松阪市公共下水道事業会計補正予算（第 3 号）
議案第 52 号	平成 29 年度松阪市松阪市民病院事業会計補正予算（第 3 号）
議案第 55 号	松阪市職員退職手当支給条例の一部改正について
議案第 56 号	松阪市消防団員等公務災害補償条例の一部改正について
議案第 58 号	調停の合意について
議案第 59 号	損害賠償の額の決定及び和解について
議案第 60 号	人権擁護委員候補者の推薦について
発議第 1 号	市議会議員の派遣について
発議第 2 号	松阪市議会特別委員会の設置について
選挙第 1 号	松阪市議会特別委員会の委員選任について



表決が分かれた案件

議案番号	案 件	審 議 結 果
議案第 1 号	平成 30 年度松阪市一般会計予算	賛成多数 可決
議案第 4 号	平成 30 年度松阪市介護保険事業特別会計予算	賛成多数 可決
議案第 10 号	平成 30 年度松阪市水道事業会計予算	賛成多数 可決
議案第 28 号	松阪市介護保険条例の一部改正について	賛成多数 可決
議案第 36 号	松阪市公民館条例の一部改正について	賛成多数 可決
議案第 44 号	平成 29 年度松阪市介護保険事業特別会計補正予算（第 4 号）	賛成多数 可決
議案第 53 号	松阪市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について	賛成多数 可決
議案第 54 号	松阪市市長、副市長及び教育長の給料、旅費等に関する条例の一部改正について	賛成多数 可決
議案第 57 号	松阪市民病院使用料及び手数料条例の一部改正について	賛成多数 可決



表決が分かれた案件に対する各議員の賛否



議員名 議案番号	真 政 ク ラ ブ								政 志 会							グ ル ー プ 隼				公 明 党			日本共産党		市民クラブ			
	赤塚 かおり	坂口 秀夫	植松 泰之	堀端 脩	野呂 一男	中村 良子	山本 芳敬	大平 勇	中村 誠	松本 一孝	谷口 聖	市野 幸男	米倉 芳周	沖 和哉	濱口 高志	田中 正浩	西口 真理	深田 龍	海住 恒幸	松岡 恒雄	山本 節	西村 友志	殿村 峰代	栗谷建 一郎	久松 倫生	橘 大介	楠谷さ ゆり	中島 清晴
議 案 第 1 号	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○
議 案 第 4 号	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○
議案第 10 号	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○
議案第 28 号	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○
議案第 36 号	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	○	○	○
議案第 44 号	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○
議案第 53 号	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○
議案第 54 号	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○
議案第 57 号	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×	×	○	○	○

議長 山本芳敬は採決に加わりません。 ○は賛成した議員、×は賛成しなかった議員

代表質問

平成30年度当初予算案の審議にあたり、2月定例会初日に市長から市政に対する所信が述べられました。

これに対し、会派の代表議員が、ひとりあたり50分(答弁時間含む)の時間制限の中で質問しました。

【例】所属議員3人の会派は、50分×3人＝150分の時間制限となります。

代表質問のページの原稿は、本会議での発言を要約し、議員自身が作成したものをそのまま掲載しています。



日本共産党

市民の願いが生きる市政へ、さらに

久松 倫生 議員 栗谷建一郎 議員
殿村 峰代 議員



くらしの願いを実現する予算に

Q 選挙で掲げた5つの政策のうち、幼小中へのエアコン設置、子ども医療費窓口無料



▲実現できた教室へのエアコン設置

化の一部開始、四半世紀ぶりの快挙といえる国民健康保険税の引き下げが実現する。市民の皆さんとともにがんばってきた成果といえる。一方、今回介護保険料が引き上げになる。あまりにも高いというのが被保険者の実感である。これだけの負担が必要か。

A 保険料が大幅に上昇しないよう支払い準備基金から6億円取り崩し、負担割合を13段階から14段階とし所得水準に合わせ、きめ細かい設定とした。

Q 保険料ばかり上がって、サービスを受けるのは一部の人にならないか。

A 心身の機能低下を招かないよう介護予防事業の推進を図っていききたい。



▲子ども医療費窓口無料化と国保税引き下げを報じる新聞記事



地域医療と市民病院のあり方を問う

Q 市民病院の「在り方検討委員会」は、「初めに済生会との統合ありき」で論議が進んでいるのではないか。

昨年12月の市主催のシンポジウムでは、済生会と統合ありきの意見と、それに対し慎重な意見があった。3病院の院長さんの話し合いがあり、どんな方向が確認されているのか。

A 市民、地域住民にとって重要な問題でありしっかり議論する中で方向性を見だしていききたい。済生会総合病院との統合について選択肢の一つ。既定の何々をしななければならないという段階ではない。

Q 市民病院予算は黒字で計上され、10年間黒字でいけると認識していいか。

A 10年間黒字を見込んでいる。



安心できる放課後児童クラブに

Q 放課後児童クラブで、新入児童が多く入ってくるため、すでに入所している子どもたちが退所しなくてはならないという事態がある。対応策は。親御さんや委託業者と行政の連絡がうまくいっているか。

A さまざまな問題にできるだけお応えできるよう努めていききたい。



地域交通システムを進める体制強化を

Q 地域交通システムの見直し、充実は市民の強い要望である。商工政策の一部門という今の体制でやれるかどうか。都市政策全体の中でしっかり位置付けることが必要ではないか。

A 今後、全庁的な視点をもって最適な組織をめざし、検討を行っていききたい。



雇用のルール違反にけじめある対応

Q 公契約における賃金未払というルールに反する業者が参入すること自体、市民の税金の使い方としておかしいのではないか。けじめある対応ができるかどうか。

A 29年度不払いの案件が4件、1社確認した。事実確認した時点で厳正な対応をしていききたい。



非核平和都市としての行動を

Q 2017年7月、国連で核兵器禁止条約が採択された。ヒバクシャ国際署名が進められてる。非核平和都市を宣言をしている市長として署名する考えは。

A 非核宣言自治体協議会や平和首長会議へ参加し、ヒバクシャ国際署名に賛同している。今までのスタンスは変わることなく、非核平和について活動していききたい。



▲平和行進へ竹上市長のあいさつ



政 志 会

竹上市政 3年目の 「チャレンジ予算」を問う

濱口 高志 議員 市野 幸男 議員
中村 誠 議員 米倉 芳周 議員
松本 一孝 議員 沖 和哉 議員
谷口 聖 議員



なぜ振興局での 確定申告を廃止するのか

Q 市長は任期中の借金を増やさないと言っている。これには収納率のアップが欠かせない。それなのになぜ昨年まで実施していた振興局での確定申告を廃止したのか。

A 平成18年から市役所への税務署職員の派遣が無くなったことから市役所での確定申告は廃止した。しかし、三雲・嬉野振興局では住民サービス低下につながることから継続していた。その後10年が経過し、自治会長会議で報告し、廃止の了解を得た。しかし嬉野の中山間地域は来年度もう一度考えたい。

意見 三雲の人からも苦情を聞いている。期間限定で構わないので検討してほしい。



松浦武四郎誕生地を 今後どのように活用するのか

Q 誕生地をきれいにしていただいたのだから、記念館からの道をカラー舗装するとか、堤防へ車で上がれるよう整備してはどうか。周遊できると古民家を活用しての民間の出店等で経済効果が期待できると思うが。

A カラー舗装は経費がかかるので、周遊を促す他の方法を考えたい。



小野江公民館を新設すべき！

Q 武四郎記念館の来場者が増え、また貴重な資料の保存という点で、公民館として使いにくくなってきている。小野江公民館を新設すべきではないか。

また、小野江の学童保育も定員を超え、場所に困っている。公民館と併設という手法も考えられるかどうか。

A 公民館と記念館の分離が求められていると考えている。市全体の中で検討し整備していきたい。

意見 合併特例債が延長されれば43億円使える。これで検討いただきたい。



▲小野江公民館と併設の松浦武四郎記念館



防災無線が聞こえない！

Q 防災無線が聞こえないという声をよく聞く。津市のように防災用ラジオを配布してはどうか。

A 登録いただいた家の固定電話へ防災無線の内容を自動で鳴らすサービスを検討している。



▲明和町の津波避難タワー



津波避難タワーは設置するのか

Q 沿岸部では避難タワーの要望が根強い。検討委員会での議論の状況は。

A 避難困難地域として、五主町、高須町、松名瀬町を抽出した。津波タワー等のハード整備が必須と考える。



翠松閣を駐車場にする計画は

Q 昨年、別館建築について質問したところ、中期課題とのことであった。翠松閣の用地取得は進展があったのか。

A 所有者が建物の価値を主張し、合意に至らなかった。

Q 現在、翠松閣は解体工事をしている。第三者が取得するのか。

A 金額で合意に至らなかった。

意見 残念としか言いようがない。もう他に土地は無い。これは市の失策。



▲解体中の翠松閣



台風21号の教訓を踏まえて

Q 昨年の台風21号が大きな教訓となった。浸水による交通規制、土のう配布、排水ポンプ対応等、業務を同時に行っていた為、人員体制がとれなかった。今後、どのような体制を構築するのか。

A 市職員は全体で440人、建設部は59人が対応作業を行った。今後は防災対策課と協議し、台風の規模に応じて必要な人員を確保し災害時体制を整える。



▲増設される大口ポンプ場

Q 住家、非住家合わせて128棟の床上浸水があった。今後の改善策は。

A 県と床上浸水を10年間でゼロにするため、松阪地区浸水対策検討会を発足し、浸水被害発生メカニズムと浸水シミュレーションを作成し事業対策の検討を重ねている。排水ポンプについては14施設あり稼働状況を確認し、オーバーホール等の対応を行っている。雨水ポンプ場は平成30年度に2基増設する。農地の湛水防除に係る排水機場は、39カ所あり排水能力の確保、長寿命化を図るため、順次整備を進める。



森林公園の今後の方向性は

- Q 森林公園は30年を超え、老朽化が著しいが、今後の運営の方向性は。
- A 次期指定管理後の平成38年度以降の方向性は、建物の建て替えや大規模な修繕は考えていない。施設の見直しや規模の縮小など協議、研究をする。



飯高「宮ノ谷溪谷」整備内容は

- Q 過疎地域魅力アップ整備事業において1,000万円の予算で飯高の宮ノ谷溪谷歩道整備はどのような整備を行うのか。
- A 崩落箇所の迂回ルートの設定、老朽化著しい箇所の修繕、案内看板の設置、駐車場の拡幅等、登山客の安全・利便性を高めるための整備を行う。



▲宮ノ谷溪谷



子育て1番宣言は どこまで進んだか？

- Q 平成30年度は保育園の移転改築による定員増を見込んでいるが、現在の待機児童をどこまでカバーできるのか。
- A 実待機児童数は、平成30年2月1日現在で226人。私立認可保育園2園の移転改築により、合計80人の定員増となるが、まだまだ待機児童を解消しきれない。平成32年度以降も施設整備に努めていく。
- Q 保育園ICT化により何が軽減されるのか。逆に保育士の負担にならないか。
- A 保育日誌等の記録をシステム化し、効率化を図る。導入前後のサポート体制を充実させ、保育士の負担軽減を図る。
- Q 子育てと関連したライフイベントを盛り上げるため、オリジナル婚姻届の研究を進めてはどうか。
- A 松阪市の魅力発信と考え、若手職員の意見も伺い、平成30年度中に作成する。



スケートパークから メダリストを！

- Q スケートパーク構想において、スケートボード協会や競技者の方に協力依頼し、アドバイスをもらっているのか。
- A 基本設計に関わっていただき、地元愛好者の意見も反映させ、大会基準を取り入れ、設計監修していただいた。
- Q 駐車場が少ない。整備するのか。
- A 普通車113台分の駐車場を建設する。それ以上のスペース確保も考えている。



▲東京オリンピックで新たに競技種目となるスケートボード



市民クラブ

「バージョンアップ松阪」に向けた 竹上丸の航路を問う

中島 清晴 議員 楠谷さゆり 議員
橘 大介 議員



子育て支援の充実 今、幼稚園・保育園は

- Q 質の高い幼児教育・保育が必要。保育士確保と正規率向上について考えは。
- A 将来的な児童数の推移や今後の保育需要、国の政策の動向など子育てを取り巻く環境や背景を総合的に踏まえ、正規職員の確保と適正配置に努めている。



出生や婚姻などの手続きに ワンストップサービスを！

- Q 出生や婚姻、転入転出は手続きが煩雑である。手続きの一覧やハンドブックなどを作り、利便性を上げられないか。
- A 有効な手段と考え作成していきたい。



より一層、子どもの貧困対策を！

- Q 学習支援事業の評価は。学習室を増やせないのか。
- A 勉強への意欲が上がり、本人の自信になっている。学校でも好評価である。31年度以降に増設していきたい。

変わる？農業政策 生産調整廃止を受けて

Q 半世紀続いてきた減反政策に、国の関与がなくなる。大きな農政の転換期にあたり、特徴的な政策の変更はあるのか。

A 平成30年産米から、政府の生産数量目標の配分は行われない。これは農業者の経営の自由度を高めることを目的とし、減反の廃止ではない。

カリヨンビル、さらなる 経営黒字化を目指して！

Q カリヨンビルの耐用利用年数は34年。平成5年に竣工し、本年度で25年。9年後に大規模な修繕などあるのか。

A 一部改修済み。管理は良好にされている。大規模修繕の必要はないと考える。

Q カリヨンビルの自立した運営が必要。さらなる経営の黒字化を目指して欲しい。駐車料金が相場より少し高い、料金表示がはっきりと明示されていないなど、改善の余地はまだあるのではないか。

A 運営は十分自立していける施設。今後も健全な運営に努めたい。



▲カリヨンビル（日野町）

松阪フルマラソンの開催に向けて



▲合併後13回目を迎えた松阪シティマラソン

Q 開催までのプロセスは。

A 平成30年度は準備委員会を立ち上げて大会コンセプトや目的、コースなどの基本計画、それからスポーツ団体などを入れた実行委員会を立ち上げる。

Q マラソン開催の目的は。

A 健康増進、松阪の発信。

Q フルマラソンは健康に必ずしもよいとは思っていない。短い距離はあるのか。

A 3km、10km、ファンランも検討する。

Q 松阪のフルマラソンでいい記録を出すために1年間ランナーが練習をするような大会にしてほしい。

A マラソンを自分の趣味や生きがいとしている方々の価値観は多様だと思われる。

松阪市民病院のあり方と 今後の展開

Q 松阪の医療を守る、自治体病院としての役割をどう考えているのか。

A 病院の経営破綻や地域医療の崩壊は、地域そのものの崩壊につながる。将来においてこの地域にふさわしいバランスのとれた医療提供体制を構築していく。

Q 市民や病院職員にも不安が募っている。雇用の確保に対する考えは。

A 人口減少・少子高齢化に伴う医療需要の変化、診療報酬の改定や医師不足など、社会の変化による時代の要請に各病院個々が対応することには限界がある。いかなる選択肢の中においても職員の雇用の確保を目指していきたい。

真政クラブ

“10年後が楽しみ” 30年度予算と子育て一番宣言

大平 勇 議員	堀端 脩 議員
赤塚かおり 議員	野呂 一男 議員
坂口 秀夫 議員	中村 良子 議員
植松 泰之 議員	山本 芳敬 議員



松阪市財政構造の 状況について2点を問う

Q 財政状況の現状はどうか。

A 財政基盤の強弱および財政構造の弾力性を判断する指標として、①経常収支比率があるが、収入に対し絶対に必要となる経常的な出費割合で、この比率が低いほど財政に弾力性があると判断され、89.8%である。（県下14市の平均92.4%）②公債費負担比率は、一般財源総額に占める公債費へ充当する一般財源の割合を示すもので11.6%である。（県平均15.1%）③実質公債費比率は、市に標準的に入ってくる税金や地方交付税などのうち、何%が借金の返済に使われているかを示すもので6.9%である。（県平均7.4%）なお、18%を超えると市債発行時、国の許可が必要となるが、市はレッドカード・イエローカードにも該当しない。

Q 自主財源、依存財源など財成健全化を表すプライマリーバランスはどうか。

A これは毎年度、新たな借金に頼らず税収だけで賄えるかであり、平成27年度・28年度黒字である。



▲財政健全化、学校の校舎改築、空調・トイレ等の環境整備

市町の合併協定書事項と 合併特例債の再延長時の事業は

Q 平成17年1月1日に合併したが、市町村は1家族で歴史や文化、しきたりも違い5家族をまとめるのは並大抵ではない。合併時の協定書に23項目34事業を計画的に一本化するとあるが、未解決事業があるのか。



▲「松阪市」誕生、平成の合併記録

A 時代背景や市民ニーズに沿った形で整備を進めているが、使用料および手数料等の取り扱いについては、施設の固有の事情等があり調整に至っていない。

Q 合併特例債の5年間再延長になった場合、どんな事業を想定しているのか。

A 合併特例債を有効活用し、インフラ整備を行ってきたが、東日本大震災等に係る復旧、復興事業や東京オリンピック・パラリンピックに向けた建設事業の増大に係る建設資材の高騰や、技術者不足も見られ一部の自治体においては入札の不調・下落が発生するなど、事業年度の延長や見直しを行わざるを得ない状況で、国へ働きかけた結果、可決されると再延長され、43億円程度、今後の実施計画や予算査定の中で事業を検討する。

用語
解説

プライマリーバランス

財政収支において借入金を除く税収などの歳入と過去の借入に対する元利払いを除いた歳出の差のこと。

松阪市都市宣言を平成30年度、 どう生かすのか

Q 6つの宣言とは、①交通安全都市、②暴力追放都市、③非核平和都市、④男女共同参画都市、⑤青少年健全育成都市、⑥人権尊重都市であるが、松阪市の根幹宣言に対し平成30年度具体策はどうか。

A ①交通安全都市であるが、平成22年に交通死亡数が全国ワースト1位、平成26年度は2位と言う不名誉になり、その後各団体の協力により平成27年度以降は減少、平成29年度は1桁台となった。

②暴力追放都市は平成23年暴力団排除条例を施行、市役所内で民事介入暴力巡回無料相談を実施している。

③非核平和都市は、戦争の悲惨さと平和の尊さを広く訴え恒久平和の実現に向け宣言、330自治体が協議会に加入連携。

④男女共同参画都市は17年12月、⑤青少年健全育成都市も17年12月。⑥人権尊重都市は18年3月に宣言。安心・安全なまちづくりの推進を図る。



▲本庁舎前の「松阪市の都市宣言」

フルマラソンで 松阪を盛り上げる

Q 競技に参加しない市民の楽しみ方は。

A 応援メッセージボードのコンテスト、マラソン俳句、太鼓、ダンスなどの応援でフルマラソンにかかわってもらう。



カリヨンビルが公共施設に

Q 現在のテナントは営業継続可能か。

A 地場産業や歴史文化の振興につながる商業活動を積極的に行っていただいております、考慮して対応していきたい。

新規事業で子育て応援

Q 病児病後児保育と一時預かりは、どこで、何人が利用できるのか。

A おおはし小児科、安田小児科内科で実施。10人程度の受け入れは可能である。

Q 2カ所目の嬉野保健センターでの子育て世代包括支援センターの支援体制は。

A 子育て教室を子育て支援センターとの協働開催や、中川新町交流センターでの育児相談など工夫して事業を実施する。

戦略的な企業誘致活動の展開は

Q 企業誘致活動への取り組みと企業立地戦略内容は。

A 取り組みとして企業立地アンケート調査と国内および市内企業投資動向調査の実施と国内外からの企業誘致と市内に立地する企業を留め置く取り組みなど企業立地をより一層推進したい。

交通安全対策事業の取り組みは

Q 交通事故を減少していくためどのような事業を中心に実施していくのか。

A 交通安全啓発事業、交通安全教育推進事業、地域交通安全対策活動事業の3つの事業を継続的に実施していく。



▲児童生徒への交通安全指導

地域公共交通システム事業の 推進は

Q 高齢者が遠くの停留所まで歩くのには厳しい現状がある。今後の考えは。

A 地域の実情に合った運行形態に切り替えていくことも視野に入れ、引き続き地域との対話により取り組みを進めていきたいと考えている。

松浦武四郎生誕200年記念 事業の推進は

Q メモリアルイヤーとして各種の記念事業を実施されるが、一過性で終わらせることなく継続的に取り組むことが必要である。観光客誘客への取り組み施策は。

A 継続した観光客の誘客につなげるため、松浦武四郎が松阪で生まれたことを認知していただくことや、偉人を生んだまち松阪の魅力をあわせて宣伝していきたい。北海道で開催の旅行博等への出展、北海道の松浦武四郎ゆかりの地での観光プロモーション等を実施。さらに、東京、名古屋、大阪等で行われる各種PRイベントに参加する際にも、松浦武四郎を紹介し、観光プロモーションにつなげていく。

Q 記念事業における周知の輪を広げるための協賛への取り組み状況は。

A 記念事業実行委員会から協賛を市民、事業所、団体等に幅広くお願いし、イベントや事業で使われるチラシ、ポスターへ名前を入れていただくことやキャラクターの使用、ステッカーの購入によるPRとして社用車、タクシー、金融機関の窓口には張っていただく等の取り組み。



▲北海道の名付け親として知られる松浦武四郎

効果的な「浸水対策」は 実現されるのか

Q 総合雨水対策10か年戦略事業は長年にわたって浸水に悩まされている地域住民にとっては大変期待の大きい事業。松阪地区浸水対策検討会にて、三渡川、百々川、愛宕川、名古須川における浸水被害のメカニズムの究明と対策を見出すことを目的に浸水シミュレーションを繰り返した。その結果は。

A 三渡川は河道掘削と三渡橋の改築、愛宕川は長月町付近での雨水幹線の断面の整備、名古須川は鉄道上流部から春日川合流点までの断面不足の改修を行いたい、百々川は解析したところ、国道23号線より上流部の松ヶ島町と船江町における床上浸水の解消には至っていない。

Q 百々川の国道23号線から上流部にかけてはシミュレーション上、効果がなかったとのこと。百々川の浸水対策における今後の見通しは。

A 県道六軒鎌田線の松崎橋の架け替えと用地買収を行い、河川と護岸の整備を順次進めていく。10年で何とか結果を出していきたい。



▲大雨のたびに溢れる百々川

地域防災計画の 抜本的見直しを問う

Q 理論上最大クラスの南海トラフ地震による想定の中、今回道路狭あい地域や液状化の発生、建物の倒壊が検討シミュレーションの対象とはしていないと防災計画に書いているが、理論上最大クラスの南海トラフ地震は、震度いくつか。

A 最大震度7。この3地区に特化した危険性とは考えておらず、どこの地域も浸水の可能性があり、当然危険である。ただ一定のシミュレーションの中で逃げるに当たってはその3地域が困難ということである。

意見 震度7の脅威と言うのは、震度6強の3倍から5倍のエネルギーがあり、鉄筋コンクリートの建物でも壊れるのが震度7である。よって今回のシミュレーションは、震度7を対象としていない。そのあたりが非常に心配である。最大被害想定に沿った上で、自力で逃げられない方々の対策を検討していただくのが、津波対策検討委員会の重要なポイントだと思う。



▲津波の遡上や浸水は河口からが一番と思うが？

その他の
質問事項

- ・国力に影響する人口減と定住自立圏構想
- ・監査指摘事項と部局長の政策宣言



公明党 未来の可能性に向けた 新たなチャレンジを！

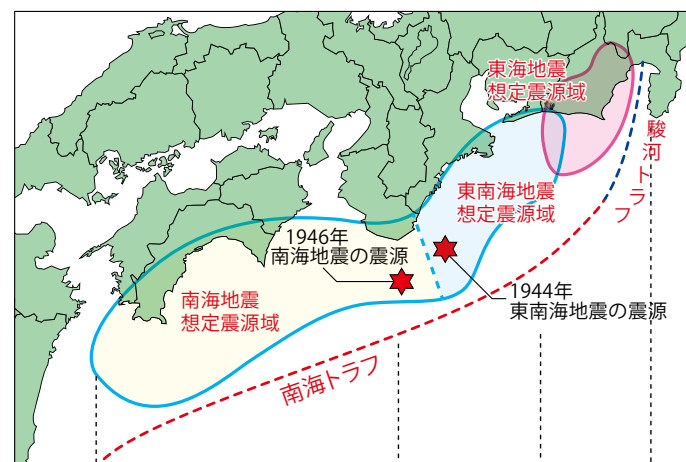
西村 友志 議員 山本 節 議員
松岡 恒雄 議員



防災・危機管理体制の整備

Q 松阪市津波避難対策基本方針案に示された避難道路狭あい地域で、地震等による建築物の倒壊で道路閉鎖が起こる恐れがある。ブロック塀対策への補助金制度の創設ができないか。

A 狭あい地域の解消に向けた制度の検討について、他市の例もあり十分研究をして進めていきたい。



▲静岡県の駿河湾から宮崎県の日向灘沖

飯高地域の過疎対策と林業政策

Q 飯高「道の駅」に簡易な宿泊施設を建設してはどうか。

A 今後の施設増設等は、飯高駅と十分協議、研究が必要と考える。

Q 老朽化の飯高町老人福祉センターの建て替え等計画はあるか。

A 築後35年経過しているが劣化はなく、計画的に修繕工事を行い、活用していきたい。

Q 飯高町宮前の老人福祉センター館内に併設の小津安二郎資料室も非常に古くなっており、リニューアルする考えはないか。

A 建て替えの予定はないが、貴重な資料を文化振興、地域振興の核として、情報発信に努めていきたい。

Q 林業生産者の起業育成等の立ち上げに、成果が出ているのか。

A 民間林業事業体とみどりの雇用により、14人がフォレストワーカー研修を終了し、新しい雇用が生まれている。若者が林業に定着する就労環境整備と林業に使命感を持ち意欲的に行動できる人材を求め、関係機関と連携し、担い手確保を進めていきたい。



▲道の駅「飯高駅」

生活インフラ整備の充実



▲県道伊勢松阪線の本町東交差点

Q 2016年の無電柱化推進法の制定後無電柱化推進計画案が公表されたが、その概要と本市の無電柱化計画は。

A 景観、観光、安全、快適、防災の観点から推進されており、無電柱化に係るガイドラインに沿って、地中化以外の手法も活用し無電柱化を進めている。市として松阪工業グラウンド前の市道外五曲下村線、駅東の市道松阪駅松阪港線を、県道伊勢松阪線と松阪公園大口線の電柱類の地中化を県が行っている。

Q 道路の側溝、排水路の整備の現状と今後の計画は。

A 生活環境整備の一つとして、自治会要望、浸水対策、下水道事業とあわせた側溝、排水路整備を行っている。

意見 障がい者、高齢者、子どもの通学路など歩道のバリアフリー化を積極的に行っていただきたい。

その他の
質問事項

- ・「豪商のまち松阪」中心市街地土地利用計画について
- ・松阪牛の振興策について
- ・教育の長時間労働是正と教育の質の向上について
- ・学校での心肺蘇生教育の普及推進について
- ・産業用適地整備計画について
- ・スケートパーク建設について
- ・健診受診率向上の取り組みについて



グループ 皇

平成 30 年度「誰のため、 なんのため」予算。原点を問う。

海住 恒幸 議員 西口 真理 議員
田中 正浩 議員 深田 龍 議員



松阪市の子育て環境は 36 位

Q 子育て関係の専門サイトが運営する「共働き子育てしやすいランキング2017総合編」で162自治体中、松阪市は36位だった。一方で、市民意識調査では市民の満足度は低いとなっている。PR不足なのではないか。

A 一番大事なのは、基本的には口コミだと思う。いかに市がやっているさまざまなことを周知し、口コミによって広がっていくかというのが一番強い情報発信である。

A 庁舎裏に設置する機器の騒音には防音フェンス、屋上に設置する機器には防振架台などの対応を考えている。

Q 本庁エアコン工事で地元業者に仕事が回るようになるか。

A 競争性を確保しつつ、可能な範囲で市内業者が参加できることを考え、入札契約審査会にかけ決定していく。

Q ガスエアコン機器の寿命については。

A 15年と考えている。



▲ガスエアコン室外機



小野江放課後児童クラブの その後

Q いつ潰れるかわからない耐震性のない建物の中で、子どもたちの放課後の時間は経過してしまうのか、大きな地震が予見されている中で、失われてはいけなものを失ってからでないかとあがなうことができないのか。

A 市内にある全ての放課後児童クラブの現状を踏まえ、総合的に見させていただいて、これはきちっと改善を進めていきたいと思う。



市役所本庁の 空調設備工事について

Q 本庁空調設備の熱源は。

A ガスヒートポンプ方式である。

Q ガスエアコンは電気に比べ室外機騒音が10デシベルくらい大きいですが、振動・騒音は大丈夫か。



学校が避難所になった時の 市の考え方

Q 前回南海トラフ地震で小中学校の避難所は体育館だけとの答弁があったが本当に教室は避難所として使わないのか。

A 南海トラフ地震のような大規模災害時には体育館のみでは到底収容できないことが予想されるので、校舎の利用も考えている。



3 億円のスケートボード場は 必要か？



▲松阪市が購入することになったカリヨンビル

Q スケートパークの話題が新聞紙上に載り、市民の間に本当に必要なのかという疑問の声も聞かれる。是非を考えるにあたり、事業が市民に需要があるのか、予算に見合う効果が市にあるかの点で判断すべき。市内のスケートボード愛好者は何人くらいか。完成後の利用者は何人見込んでみえるか。全国規模の競技会を開催できる見込みはあるのか。

A 市内愛好者の人数の把握については困難と考えている。利用者数については、他市と同様にできるだけ多くの方に利用していただきたい。日本スケートボード協会の監修で進めており、協会との関係を強めながら大会開催へ繋げていきたい。

意見 新しい事業を始める場合、マーケティング調査で目標の数字を出して然るべき。安易に造って失敗した例もある。しっかり検討して市民に喜んでもらえる施設にしていきたい。



カリヨンについて

Q カリヨン建設時の多額の返済問題について松阪市の責任は重い。市としてのケジメをつけてほしいことを促す質問とした。カリヨンは、借金を返せなくなったという問題ではない。30年前に松阪市、商工会議所、国・県という当事者たちがつくった問題だ。当時の市議会にも責任がある。この構図を明らかにしておく責任が議会にはある。

平成3年度に市は3億円の出資をしたが、これは逃れようのない責任だ。なぜならこの3億円がなければカリヨンは建たなかったし、借金も存在しなかった。というのは、地元自治体である松阪市が出資したなら、国・県は上限15億円まで貸し付けるという条件だったからだ。松阪市にはその道義的責任があると思うが、そういう理解でよいのか。

A 松阪市を含めて設立に関わるすべての関係者にそれぞれの立場において責任がある。県や国とともに関係者がなんらかの責任をとる形でこの負債を処理していく構図になっており、市は適正な価格で購入することが道義的責任であると思っている。



▲スケートパーク構想図

その他の質問事項

- ・人口減少から生まれる労働力の低下対策について
- ・津波避難対策について
- ・市財政について
- ・市民病院のあり方について
- ・子ども発達総合支援センターの外壁等のメンテナンスについて

議会 報告会

開催しました!

4月18日(水)、20日(金)、21日(土)の3日間、市内12会場で議会報告会を開催しました。今回は、新たに2部においてテーマを設定し、市民の方との活発な意見交換等が行われ、3日間で311人の方が参加されました。次回開催は秋ごろを予定しています。

開催日	開催場所	参加人数
4月18日(水)	橋西地区市民センター	37
	徳和地区市民センター	33
	阿坂構造改善センター	34
	大石地区市民センター	23
4月20日(金)	港地区市民センター	16
	漕代地区市民センター	29
	射和地区市民センター	26
	花岡地区市民センター	48
4月21日(土)	嬉野生涯学習センター	18
	ハートフルみくもスポーツ文化センター	24
	飯南産業文化センター	12
	飯高総合開発センター	11
	計	311

議会報告会アンケートから

参加者の皆さまからいただいた感想の一部です。
(原文から一部抜粋して引用)



▲橋西地区市民センター会場

■徳和会場■

定例の報告が、以前と比較して短時間にまとめられており、分かりやすかった。
【50代男性】

■港会場■

質疑応答の議員からの返答が的外れだったように思う。
【50代男性】

■橋西会場■

出された意見は、今後どのように活用されますか。市民意見として議会から行政へ提案が報告されますのでしょうか。
【50代男性】

■阿坂会場■

前回よりは分かりやすい説明でした。報告会も大切ですが、市民がもっと市政に興味を持ってもらえるように努力していただきたいです。
【30代女性】

■漕代会場■

防災に関して今までに知らなかったことをたくさん聞くことができました。近くでありながら、課題が全く違う校区があると分かりました。市政についての素朴な質問にも丁寧に答えていただきました。
【50代男性】



▲射和地区市民センター会場

■花岡会場■

討論の賛成反対は会派を入れるべきである。行政チャンネルの市長の所信表明は良かった。各常任委員会で議論は、示さなくても良いのか？
【60代男性】

■射和会場■

議会としての内容が分かりやすく興味を湧く報告会で良かった。
【30代男性】

■嬉野会場■

良い取り組みだと思います。継続して頂ければいいのでは。
質疑応答は構成を考えた方がよい。
【50代男性】



▲大石地区市民センター会場

■飯高会場■

用語等難しいものがあると感じましたが、良く分かりました。ありがとうございました。
【50代男性】

■飯南会場■

今回、参加するのは初めての参加です。議会報告会に参加させていただいて、いい報告会になりました。色々な松阪市のことがよく分かりました。
【40代男性】

■三雲会場■

議会報告はやはりこれからそして頂きたい。今回はとっても勉強になり、分かりやすかったです。議員さんの顔が見られる事は大変良いです。
【70代以上女性】



▲ハートフルみくもスポーツ文化センター会場

市民病院について

参加者

市民病院が無くなるとか、統合されるとか聞くと、何で合併しなければならないほど赤字が膨らんだのか。方向性はどのように。

赤字ではなく、ここ10年ほどは黒字である。自治体病院として優秀と評価されている。市民病院の在り方検討委員会が設置され、検討を重ねてきた。去る3月27日にその答申書がだされた。2025年問題に向けて、今後、3総合病院の存続は人口減少等により困難とされている。そのためにも地域医療を守るという意味において、協議を重ねている状況である。地域医療構想も精査しなければならない。答申でも結論は出ず、存続か済生会病院との統合も含め、これから議論が始まる。市長も市民への説明も行っていくとしている。また、市議会としてもこの度、特別委員会を設置し、市議会としての議論も行う。この1年しっかり協議を行う予定である。

議員

カリヨンビルについて

参加者

カリヨンビルの購入について、かつての議論では、市は第三セクターにお金は入れないとの事であったが、その点は議論されたのか。借金の補填をするのか。

街づくり公社から特定調停の申し立てがあり、その中で市が買い取る事を条件に国、県が債務放棄する事とした。市としては、債務の補填ではなく、あくまでも外部に鑑定してもらった適正な価格でビルを買い取るとの認識であるとの答弁があり、そう理解している。

議員

財政について

参加者

竹上市政が3年目の予算でチャレンジ予算と位置づけている。大型予算を編成したのは多額の財源が必要となる。将来借金を増やさないとしているが、見通しと何を大きくしたのか。

財源としては、財政調整基金の取り崩しと、有利な借入金である合併特例債、臨時財政対策債により構成をされているので借金を増やすことにはなっていない。健全な財政運営となっている。多額の予算となった要因は、鎌田中学校の改築予算、北部学校給食センター建設、幼・小・中のエアコンとトイレの整備が主である。

議員

コミュニティバスについて

参加者

市街地から外れ、公共交通機関が少ない当地域においては、高齢者の運転免許証返納は難しい。買い物弱者が増加している状況だが、市営バスを走らせてもらえないか。

市内のある自治会では、バス会社に業務委託し、コミュニティバスを自治会で運営している。また、津市内ではタクシーを利用した、デマンドタクシーを運営し成功している事例もあり、そうした先進的な事例を参考にし、市内でもデマンドタクシーの導入に取り組んでいる自治会があり、モデルケースとして松阪市も注目しているところである。

議員

住民協議会について

参加者

住民協議会と自治会の役割は明確化されているのか。

住民協議会と自治会の役割分担が分かりにくいとお声を受け、市議会として、一昨年、松阪市住民協議会条例に対する付帯決議が可決された。竹上市長は、自治会は任意の団体ととらえているが、住民協議会は、行政がお願いして作ったとの見解を述べている。自治会、住民協議会、公民館としっかりと協議を重ね、この1年間で方向性を決めていく。

議員

市議会について

参加者

現在自治会長に就任していただく方が無い状況がある。まちづくり協議会との役員が重荷になっている。いろんな地区で自治会長の皆さんに集まっていただき、苦労や現状を知っていただくこと、そして仕事量を解っていただくためにも、議会との意見交換会をしていただきたい。また、意見交換会について、テーマを設けずにしていただきたい。

各団体とも意見交換会をできるよう、自治連合会の役員の方々とは行っている。広報広聴委員会に伝えたい。また、可能かどうか検討し、意見を反映させていただきたい。

議員

第2部 地域防災について

参加者

地域防災自助共助について要援護者を含め互いに支えあっていくためにも、介護保険での総合事業で関わりあっていくことが望ましいと思うが、地区防災計画への周知広報はどうなっているか。

地区防災計画作成については、各地区において、手上げ方式で、各地区の積極性を期待しているのが行政の考え方、毎年の防災訓練等での反復訓練など、常々の積極的な関わりが必要と考えるため、各世帯のご協力をお願いしたい。
【災害に備える冊子】声かけ助け合い制度、今後、議会としても研究をすすめ、行政とともにしっかりと議論していきたい。

議員

意見

自治会に参加していない世帯や地区の線引きによって、隣接する地域でのかかわりの難しさがある。
自治会単位での互助共助であれば、どうしていけばよいのか。自治会連合会やまちづくり協議会等での会議においても、全自治会からの参加が難しい。代議員や役員の成り手がいない。地域の運営をどのようにしていくべきか、だれがどのように担っていくのか、行政も寄り添ってほしい。

参加者

自主防災組織と、消防団とは、車の両輪だと思うが、なかなか連携が取れていないのが現状。今後、どのように連携をしていくか、市がどのように考えているのか。

国の方針としては、消防団が地域の防災活動については、リーダーシップをとってほしいという考え方であり、中心になって積極的に活動をいただきたい。

議員

参加者

なぜ、松阪に避難タワーができないのか。

避難方法（遠く・高く）の徹底と、民間ビル等への協力依頼にとどまっている。タワー的なものの必要性を検討、研究するところである。

議員

参加者

昨年の台風被害の際、どの道が水没しているのか、どの地区にどのような被害が出ているのか、情報共有をすることができず、大変困った。消防本部、消防団さんから各地区に情報が降りてこない、被害を抑えることはできないと思う。

今回の代表質問でも取り上げ、議会でも議論したところである。地区防災計画の策定や、消防団と地域との連携など、より積極的にかかわっていただきたい。

議員

参加者

防災行政無線が聞こえない。聞き取れるようにしてほしい。

そういう声はよく聞く。対応はしているが、いくら建てても聞こえない地域は出てくるのが現状。エリアメールが使えない方のために電話を使う事など、他の手段も検討している。

議員

平成 29 年度
行政視察の
受入状況



松阪市議会では、全国各地の自治体議会からの行政視察調査を積極的に受け入れています。

平成 29 年度に松阪市を行政視察調査のために訪れた各自治体の議員及び職員は 219 人、自治体議会数は 27 団体でした。市が現在行っている各事業の内容などについて視察されました。

平成 29 年度 行政視察（受入分内訳）

NO	自治体名	月 日	人	調 査 事 項	対応課名
1	大阪府泉佐野市	4 月 13 日	4	自治体病院の運営について	市民病院
2	福島県いわき市	4 月 18 日	9	ベルファームの取り組みについて【現地視察】	農水振興課
3	北海道	4 月 20 日	4	松浦武四郎記念館【現地視察】	松浦武四郎記念館
4	東京都葛飾区	4 月 26 日	14	議会運営及び議会改革について	議会事務局
5	大分県大分市	5 月 9 日	11	住民協議会について	地域づくり連携課
6	愛知県一宮市	5 月 11 日	1	松阪市手と手でハートをつなぐ手話条例 高齢者ボランティアポイント制度について	障がいあゆみ課 介護高齢課
7	福井県福井市	6 月 29 日	10	ウッドピアの取り組みについて【現地視察】	林業振興課
8	香川県三豊市	7 月 4 日	9	地域自治組織の概要と活動補助金・交付金事業について	地域づくり連携課
9	徳島県鳴門市	7 月 7 日	8	ベルファームの取り組みについて【現地視察】	農水振興課
10	宮城県富谷市	7 月 11 日	7	ベルファームの取り組みについて【現地視察】	農水振興課
11	京都府長岡京市	7 月 11 日	4	道の駅「飯高駅」について【現地視察】	西部農林事務所
12	東京都府中市	8 月 3 日	9	ネーミングライツについて	市政改革課 (文化課・スポーツ課)
13	富山県富山市	8 月 17 日	4	松阪競輪場【現地視察】	競輪事業課
14	東京都昭島市	10 月 18 日	6	クリーンセンターについて ごみ減量（3R）の取り組みについて【現地視察】	清掃施設課 清掃政策課
15	山口県美祢市	10 月 19 日	9	自治体病院の運営について	市民病院
16	岡山県西部衛生 施設組合議会	10 月 24 日	15	クリーンセンターについて 最終処分場について【現地視察】	清掃施設課
17	東京都八王子市	10 月 27 日	15	議会改革の取り組みについて	議会事務局
18	神奈川県秦野市	10 月 30 日	7	スポーツ施策について	スポーツ課
19	埼玉県川越市	10 月 31 日	9	松阪市手と手でハートをつなぐ手話条例 子ども発達総合支援センター「そだちの丘」について	障がいあゆみ課 子ども発達支援センター
20	神奈川県愛甲郡愛川町	11 月 6 日	3	スポーツ推進計画・ネーミングライツについて	スポーツ課
21	南越清掃組合議会	11 月 8 日	13	クリーンセンターについて【現地視察】	清掃施設課
22	福岡県みやま市	11 月 9 日	6	ICT教育の推進について	学校支援課
23	長野県佐久市	11 月 15 日	13	松阪市地域公共交通形成計画について	商工政策課
24	栃木県小山市	平成 30 年 1 月 11 日	7	未知普請をとおしての地域の〇（輪・和）づくり事業	地域づくり連携課
25	山口県周南市	1 月 16 日	3	地域ブランドを生かしたまちづくりについて	地域ブランド課
26	岩手県盛岡市	1 月 30 日	10	教育現場における ICT 活用と情報教育について	学校支援課
27	埼玉県蕨市	2 月 5 日	9	議会基本条例に基づく取り組みについて	議会事務局

平成 29 年度
政務活動費の
執行状況

■交付の趣旨

政務活動費は、松阪市議会議員の政策立案及び調査研究その他の活動に資するため、必要な経費の一部として交付しています。

■交付の対象

松阪市議会における会派及び会派に所属しない議員に対して交付しています。

■交付額

会派の所属議員数に月額 25,000 円を乗じて得た額（会派に所属しない議員は月額 25,000 円）を交付しています。

●平成 29 年 4 月～ 7 月分

（単位：円）

会派名 科 目		真政クラブ 9人	市民クラブ 5人	日本共産党 3人	公明党 3人	グループ聿 3人	青凜会 3人	楠谷さゆり	前川幸敏	合 計
交 付 額		900,000	500,000	300,000	300,000	300,000	300,000	100,000	100,000	2,800,000
支 出	調査研究旅費	0	234,250	0	0	0	0	27,280	0	261,530
	資料購入費	0	0	62,914	0	3,200	11,556	2,160	0	79,830
	事 務 費	4,466	156	32,683	10	6,591	8,562	69	0	52,537
支出合計		4,466	234,406	95,597	10	9,791	20,118	29,509	0	393,897
残 額		895,534	265,594	204,403	299,990	290,209	279,882	70,491	100,000	2,406,103

※研究研修費、会議費、資料作成費、広報費、その他の経費は支出がありませんでした。

●平成 29 年 8 月～平成 30 年 3 月分

（単位：円）

会派名 科 目		真政クラブ 8人	政志会 7人	グループ聿 4人	公明党 3人	日本共産党 3人	市民クラブ 3人	合 計
交 付 額		1,600,000	1,400,000	800,000	600,000	600,000	600,000	5,600,000
支 出	研究研修費	0	0	195,140	0	0	165,880	361,020
	調査研究旅費	506,580	450,860	8,760	0	0	234,060	1,200,260
	資料作成費	0	0	2,160	0	0	0	2,160
	資料購入費	0	76,913	29,234	0	81,658	2,700	190,505
	事 務 費	24,929	464,370	35,747	50,166	6,943	28,165	610,320
支出合計		531,509	992,143	271,041	50,166	88,601	430,805	2,364,265
残 額		1,068,491	407,857	528,959	549,834	511,399	169,195	3,235,735

※会議費、広報費、その他の経費は支出がありませんでした。

※政務活動費の残額5,641,838 円（2,406,103 円＋3,235,735 円）については、松阪市に返還されました。



6 月定例会の開催日程 会期 23 日間

日	月	火	水	木	金	土
6月10日	11	12 議会運営 委員会	13	14	15	16
17	18	19 本会議 (議案上案) (提案説明)	20	21	22 本会議 (議案質疑) (委員会付託)	23
24	25	26 本会議 (一般質問)	27	28 本会議 (一般質問)	29	30
7月1日	2	3 本会議 (一般質問)	4 委員会 (環境福祉) (文教経済)	5 委員会 (総務企画) (建設水道)	6	7
8	9	10	11 本会議 (議決)	12	13	14

本会議は市役所 3 階市議会議場で、委員会は 2 階市議会委員会室で開催します。
いずれも午前 10 時から開催しますので、皆さんの傍聴をお待ちしております。

一般質問

議員が市長に対し、市の一般事務の執行状況や、将来に対する方針などについて、議員一人当たり 50 分（答弁時間含む）の時間制限の中で質問をします。

表紙



今月号の表紙は、松阪工業高校繊維デザイン科 1 年生の山下怜那さんの「新たな道へ」。デジタルで描きました。肌や髪の毛を少し明るめにし、全体的に明るい雰囲気になるよう仕上げました。



編集後記

「みてんか」第 70 号をお届けします。春の議会報告会では、定例会の審議について各常任委員会の内容説明から、ストーリー性を持った本会議の代表質問中心に変更し、課題や論点をより分かりやすくなるよう工夫させていただきました。今号では議会報告会では十分に語れなかった代表質問やアンケート結果、そして新たに QR コードも掲載しています。これからも、分かりやすく読みやすい「みてんか」を目指してまいります。

広報広聴委員会委員長
松岡 恒雄



広報広聴委員

(委員長) 松岡恒雄 (副委員長) 山本節
(委員) 橘 大介 松本一孝 赤塚おり
殿村峰代 山本芳敬 海住恒幸